

平成 27 年度

事業所名：ホームとよまね2号館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039300054		
法人名	株式会社メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根2-111-3		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=039300054-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 2月 5日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本位の生活実現のために、利用者様の能力を存分に発揮していただけるよう、安全でわかりやすい環境、行動の制限をできる限り行わない配慮、季節感を感じてもらえるような飾り付け等に気を配り、身体面、精神面、見当識に優しい環境整備を行っています。
地域の産直や、スーパーへの買い物、散歩、自治会や保育園の行事への参加などの外出の支援により利用者様が自然な形で地域へ入っていけるよう努め、顔見知りの関係を作っています。
外に出たいときに外に出る、お風呂に入りたいときに入る、昼寝をしたいときに昼寝をする、買い物に行きたいときにスーパーに行く、そんな当たり前の利用者様の気持ちを大切に、利用者のペースに職員が合わせることをモットーに支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目で、近くに保育園や学校があり、周囲は更地と東側は津軽石川の堤防が続く恵まれた環境にある。理念は「安心と尊厳のある自立生活を支援」と「生きていることを実感できる地域福祉」の2本柱で、全職員が事例検討を通して共有し実践に結びつけた、質の高い福祉サービスがなされている。古くからの連帯感と共に若干の閉鎖性も併せ持つ土地柄であるが、経営者が代々育んできた地域との関係性が大きな強みとなり、事業所が核となって保育園・学校・自治会・地域との交流がなされ絆づくりが図られている。震災時は津波被害者を受け入れたこともあり、その実績を活かして町の福祉避難所となっているほか、日常においても利用者の生活や事業所の活動が地域社会と溶け合っている印象がある。利用者の要望に応えられる柔軟性をどうやって生み出していくかという検討姿勢は誠実で、地域との信頼関係を背景としながら、利用者や住民、職員が人と人のつながりのなかで暮らしをわかちあい、生きている実感を生み出していくことが今後も期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 27 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の目に見える所に理念を掲示している。又、毎月の職員会議の時に唱和し、共有している。理念に関する研修会を実施し理解を深めている。	設立時職員間で話し合い「安心と尊厳」「地域福祉」を柱とした理念を定めた。毎月の職員会議で資料に記した理念を唱和し共有化に努めている。事例検討会で、気付き・客観視を深め理念との一体化を図っている。	事例検討において理念を意識していくことで、職員のなかで抽象的だったものが具体化されていく。利用者のニーズを丁寧に考えながら理念を実体化していったほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩の外出の支援を通し、地域と顔見知りの関係を保てるようにしている。保育園や、自治会の行事の参加や、日常的に地域社会の中へ利用者と共に入っていくように努めている。事業所内の行事を周知し、近隣住民も参加している。	自治会に加入、各種情報を得て行事に参加しており、自治会主催のお座敷広場では利用者が健康体操やカラオケを地域住民と楽しんでいる。産直利用などを通し、地域との顔見知りの関係づくりができており、利用者への理解も深まっている。	お金を持たずに産直に行った利用者に「後でいいよ」といつてくれたり、事業所への慰問公演に住民も10人ほど集まるなど、近隣地域との信頼は利用者生活を豊かにしている。今後も日常的で自然なつきあいを大切にしていってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト事業に積極的に参加し、認知症サポーター養成研修に、スタッフの派遣も行っている。地域の中で、認知症を対象とした施設として知ってもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な推進委員より、意見や情報が毎度得られているが、活動報告が中心となっている。	委員からは多様な具体的意見が出され、近くの保育園と避難訓練や炊き出しを合同で行った。結論を急ぐだけでなく、話し合いを大切に情報交換・交流を深めているが、報告中心の形骸化も伺える。	年6回中に、メンバーが関心をもっていたり話しやすいテーマを設け、地域の関係者を呼ぶ工夫や、開催日の検討により活性化を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて行き来している。分からないこと等は積極的に聞き、コミュニケーションを良くとれるように努めている。	町役場、地域包括支援センター、町社会福祉協議会と積極的に係わり互いに顔が見える関係作りを図っている。生活保護、国民健康保険、権利擁護、自立支援などの事項について情報を得ると共に、事業所の現状について伝え協力を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」を宣言し、身体拘束をしないケアを徹底しています。	職員研修では資料を基に、具体的事例について話し合い確認し合っている。利用者の変化や多様な状態に対応し、ことばによる抑制などについて職員同士の振り返りを大切に、接遇の研修も行いケアの見直しを進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法で定義されている5つの虐待に関して確認し、防止に努めています。又何気ない言葉遣いにも気を配り、声掛けなどの研修も実施した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活支援員の毎月の訪問を通じて、日常生活自立支援事業や、権利擁護を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の要約版をもちいて、分かりやすい説明を心がけています。理解納得が得られるよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者との面談のほか、利用者の担当職員を設けることにより、コミュニケーションの幅を広げています。	毎月の面会時(利用料金支払い)には意見や要望を聴取している。利用者の変化はその都度電話で伝え、毎日の様子は月毎の便りで家族に届けている。家族同士の絆づくりも含め家族会の開催を検討している。	日取りの設定や、飲食しながら家族間でも交流できるような楽しみ方など、家族会の方法を工夫してみながら、家族がより自然に意見を言いやすい環境の向上を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議とカンファレンスで発言の機会を設けることと、毎日の申し送りの時間をしっかりとることにより、より多く職員の意見を聞きだせるよう努めています。外部評価での話し合いもその一つだと思います。	会議などで発言しやすい雰囲気作りに配慮し、少数意見も尊重するなど、職員の発言力向上を図っている。ホールにホワイトボードを設置したり、テーブルの配置を工夫するなど、職員のアイデアを反映させ改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与・待遇ができるよう職場環境・条件を整備し、実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修とともに、外部研修の機会を均等に設けるように努めています。資格試験時の勤務優遇など、配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加や、職員の交換研修の場を活用し、お互いに交流しサービスの質向上に努めています。他の事業所からの研修の依頼があった場合は、積極的に受け入れています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご本人の思いを傾聴し、思いを受け入れ行動するよう、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご家族の思いの聞き取りを行っている。その後の面会時にも不安や要望を聞き、担当職員を設けるなどし、円滑にコミュニケーションを図れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを傾聴し、24時間365日支援している利点を生かし、必要としている支援を見極め、その都度柔軟に対応するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と一緒に行い、様々な生活の場面と一緒に過ごせるようにしています。調理や掃除、縫物など個々の能力に合わせて家事などの手伝いを促し、利用者のペースに職員が合わせて、安心して生活していただけるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料は原則として施設に訪問して支払ってもらうようにし、月に1回は家族と職員が利用者の近況等を話しあえる機会を設け、運営や介護計画書に反映できるようにしている。 又、利用者に変化がある時は、どんな些細なことでも即座に連絡し、利用者の状態を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店や美容院等の関係が途切れないよう、必要に応じて送迎や、美容院の予約などの支援をしている	津波被害により馴染みの店が流失するなど環境は激変したが、人のつながりは続いており、希望が出されれば馴染みの場や人の所へ出向くようにしている。ボランティア等も回を重ねて来所してもらい、新たな馴染みも築かれつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループング作りを行い、良い関係が保たれる利用者同士を近くの席に配置しています。 又、利用者同士の話がスムーズに行うように、必要に応じて職員が会話の橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートをもとに、本人の思いや意向の把握に努めています。又、家族から生活歴の聞き取り、日常の会話、日誌への記録等を活用し、情報収集に努めています。	入居時のアセスメント・生活歴を基盤とし、日々の利用者の言動やコミュニケーションを「気付きメモ」にし思いの把握に努めている。面会時の家族との話からも、本人の思いを推測し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートをもとに、本人の本人の思いや意向の把握に努めています。又、家族から生活歴の聞き取り、日々の日誌への記録等を活用し、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌等の記録をもとに、現状把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議とカンファレンスで意見を出し合い、ご家族の訪問時に希望や意向を聞き取り、計画に反映しています。又、日々の申し送りも長めに時間をとり、現状の把握に努めています。	利用者の生活は全員でみるという考えから職員全体によるアセスメントをプランに反映させ、特に本人の意思を重視したニーズ設定がされている。またプラン内容を日々チェックするシートの活用で、ケアプランが日常的に意識化されている。	利用者ニーズとして「人に指図されたくない」等、本人の飾らない思いが代弁されているのは新鮮であり、本質的なことと思われる。利用者の気持ちに真摯に向き合うプラン作りは今後も継続して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、日誌記録し全職員が情報を共有しながら示実践や介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた場合は、柔軟に対応できるよう、職員の配置や業務の見直しを行い、利用者の実情に合わせた支援を実施できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の外出の意向に出来る限り応じ、利用者と共に豊間根地区の資源を見つめ直し、本人が地域の中でどのように生活しているかを見つめながら、支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従前のかかりつけ医の継続受診を原則としている。必要な場合はスタッフが同行する等し、主治医と連携しながら医療を受けられるようつとめている	通院は原則家族の同行としているが殆んどは職員が行い、結果を家族に報告している。多くは従来からのかかりつけ医と地元の協力医での受診だが、県立山田病院の医師が訪問診療で来所してくれる利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師はいないが、各利用者のかかりつけ医院の看護師や、協力医療機関と連携を図り、適切な助言や受診が受けられるよう支援しています。又、通院が困難になってきた場合は、訪問診療を進めることもあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療相談室と連携を図りながら、情報交換や相談をし、円滑に行えるよう努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内で出来る事を関係医療機関、職員で話し合い、ご家族にも伝えていきます。訪問診療や緊急時の対応をご家族と確認し合い、終末期に向けてどこまでできるかをキーワードに、対応できる範囲で実施していきます	これまで急変で亡くなった方はあるが看取りまでのケースはまだなく、事業所として可能な範囲での支援はしている状況にある。今後、家族への意向調査や職員に対して意識確認を行いながら、個々のケースにおいて相談を重ねつつ看取りを含めた重度化・終末期対応を検討していく予定としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応の訓練、マニュアルの確認等を行い定期的に訓練を行っています。今年度は3月に応急救護の研修会を予定しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	起こりうる災害の予測、備えを確認し合い、運営推進会議等で協力体制の研鑽を重ねています。山田町と「福祉避難所」としての協定を結んでいます。地域の保育園と合同の災害時の炊き出し訓練も実施し、災害時は互いに協力し合える体制を整備している	運営推進会議などを通し協力体制は整ってきている。オール電化設備のため停電時の調理は近くの保育園が協力してくれることになっており、炊き出しを含めた合同防災訓練を実施している。3.11時には数名の被災者を受け入れ、現在福祉避難所となっているなかで、自家発電機等も備えられないか検討中である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は必ず「さん」づけで呼び、本人の思いや行動を初めから否定せず、見守り、傾聴を主に努めています。また、居室の入口に暖簾を付け中が見えない工夫もしています。問題行動とされる事例でも、その人を受け入れ、行動の背景にある物を知るように努めています	理念の「安心と尊厳のある自立生活を支援」に徹し、一人ひとりを尊重したケアを行っている。「問題行動」とされる言動を業務優先の固定観念から問題とし片付けるのではなく、背景を探り話し合いを重ね、利用者の自由を尊重できるよう言動に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、思いを受け入れる姿勢を利用者に向け、利用者の希望や意見を制限しないような雰囲気作りに努めています。本人が何気ない事でも安心して希望を表に出せる支援に努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての1日の大まかなスケジュールは有るものの、あくまでも職員は利用者のペースに合わせ、本人の希望に添った生活時間や活動を選ぶよう配慮し、柔軟に個々の希望に添えるよう支援を努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声掛けや、化粧水やヘアスプレーなど本人が今まで使用していたものを使えるよう支援しています。又、外出時はスタッフが一緒に服を選び、楽しく外出出来るようし支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店や産直へ利用者とともに出向き、季節の食材や食べたい物を目で観て選んでもらっている。季節感のある食事を提供すると共に、調理法もホットプレートを使い利用者の前で調理する等目で観ても楽しめるように努めています。2か月に1回程度の外食の機会も設けています	近隣の店や土・日に開く産直に利用者と共に出向き、新鮮な食材を購入している。調理、配膳、片付けなどは利用者も生活の一部として自然に行っている。献立は利用者の声を生かして作り、管理栄養士のアドバイスを得て、栄養バランスに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別に記録しチェックし、栄養状態、水分量が十分に摂取できるよう、個々の実用に合わせ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、ご本人の実施状況を見守りチェックするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録票をもとに、排泄誘導の間隔を把握し定期的に促している。もともと利用者にとってプライベートな事と理解し、手をかけることは最低限のこととし、必要以上に手をかけ、利用者の尊厳を傷つけないよう配慮した支援を実践している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守り・声がけ・介助・誘導を行っている。どこまで手をかけるかなど十分に話し合い最低限レベルに止め自立支援に努めている。便秘予防に黄粉牛乳を飲み、摂取水分量に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で摂水量を把握し、少ない利用者には促しを実施している。毎朝の体操を実施し運動不足の解消、毎昼ヨーグルトを摂取している。個別に歩行運動や黄粉牛乳を飲む等、便秘解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定表もとづき声掛け誘導はするが、本人の希望で時間や日程をずらし、利用者のペースで入浴できるように支援しています。入浴剤の使用や季節にあった(菖蒲湯等)で入浴を楽しんで頂いています	週3回の入浴を予定しているが、利用者の希望で日や時間を柔軟に対応している。入浴剤や初夏の菖蒲湯など変化をつけ入浴を楽しんでいる。入浴を避けたがる時は、足湯・シャワー湯・清拭などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリを持たせるために、大まかな施設の生活時間は定めてあるが、起床時間や朝食の時間は個々の生活習慣に合わせて柔軟に対応できるよう、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容を添付し、服用時にスタッフが手渡しで服薬確認努めています。処方が変わった場合は、日誌にて周知し、情報共有に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から役割を見つけ出し実践しています。個々の得意なことや、心身の状況によって差はあるものの、利用者それぞれの役割が決まっています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や、ドライブの他に、利用者のなじみの美容院への送迎も行っています。季節の行事として行うドライブや、地域で行われる行事への参加も行い、施設周辺の散歩も自由に行えるよう、支援しています	施設周辺の散歩、産直での買い物、地域行事へ参加、ドライブでの外出など多様な活動がなされている。利用者の希望や体調、天候により弾力的に対応している。産直では顔見知りの関係が出来、量が多いソフトクリームを半分にしてくれる等配慮してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて必要に応じて支援しています。ご本人、ご家族の希望に応じてお預かりしているお金を渡し、自由に使えるなどの支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に添えるよう、希望時はご家族了承のうえで支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような掲示物や、季節の花を置くなどし、落ち着いた雰囲気作りに努めています。	明るく広々としたホール兼食堂を中心に「身体面・精神面・見当識に優しい環境整備」が図られている。壁面には季節毎の手造りによる共同作品や写真が飾られ、ホールに兎が飼われ見守ったり話しかけたりし楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席順は気のあった利用者同士を近くに配置している。共有スペースでは選んで座れる空間を3か所設けると共に、職員事務所にもソファを置き、利用者もそこでお茶を飲めるよう、その時の気分で過ごす場所が決めれるように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の以前使っていたものや、馴染みの物を持って来てもらい、本人やご家族の希望に沿った心地よい居室を心がけています。行事の写真や作った工作なども掲示するスペースを設けています。	窓から広々とした明るい戸外が眺められる部屋である。ベッド以外は、利用者の使い慣れた筆筒や衣装ケースが持ち込まれている。壁には家族や行事の写真などが飾られ、ぬくもりのある雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない作りで自由に移動できると共に、居室とトイレドアの色を変えて認識しやすくしています。自立生活が送れるよう努めています。		